



「完全図解 気象百科」

樋間道夫著,
株式会社オーム社,
平成16年1月15日,
198頁, 2200円 (本体価格)
ISBN4-274-94889-7

見やすい, 読みやすい, 分かりやすいと言うのが, 本を開いたときの第1印象である。「完全図解」「気象百科」というタイトルがその特徴を良く表している。

1つの話題を見開き2ページにまとめ, 左は図表とイラスト, 右は解説文となっている。気象の教科書や参考書につきものの数式は一切使わず, 図表とイラストを上手に使う文章だけで平易に解説している。これが「完全図解」と銘打った所以であろう。気象学的な知識はほとんどなく, 天気や気象の現象に関してだけ興味があるという人でも楽しく読める。

本書の構成は次のようになっている。

第1章 現象編

雲, 積雲対流, 雷, 雷雲に伴う激しい現象, 雨の観測, 温帯低気圧, 小低気圧, 雪, 風, 台風

第2章 観測編

気象観測, 気象衛星画像の見方

第3章 予報編

天気予報技術, 関東地方の気象の特徴, 長期予報, エルニーニョ現象と異常気象

第4章 地球環境編

地球環境監視のための観測, 異常気象とは何か?, 地球温暖化

第5章 話題あれこれ

第6章 資料編

このように, 大気現象から始まり大気の観測, 天気予報, 地球環境へと, 気象に関連する項目を幅広く解説して, さらに, 「話題あれこれ」では「雷さまを下に聞く」なんてありうるか」など, 一般の人が気象の面白さを知るための話題満載である。まさに「気象百科」である。

著者が「気象観測や予報の

実務で体験した重要なことには深入り」して, 「台風・雷・雪などについて詳しい一方, 長期予報など, 簡単に済ませ」「内容に粗密」がある「個性の強い教科書」であると述べているように, 例えば雷に関する解説は24ページと全体の1割以上のページ数を割き, 発雷の原理, 身を守る方法, さらに電力会社との関係まで, 一般の人だけではなく気象の専門家にとっても参考になる内容となっている。

また, 「個性の強い」という面で著者の主張が端々に出てきて痛快である。例えば気象庁が台風の強さと大きさの階級分け表現を5階級から3階級にした(第1表参照)のに対し, 『「弱い」, 「並の強さ」, 「小型」, 「ごく小さい」の表現を2000年6月に廃止してしまいました。… (一部省略) …。しかし, 私見ではこれは改悪です。観測・予報技術が低かった昔と違って, 今は風速や雨量の実況を精度高く観測し, 予報し, それを社会に詳しく伝える技術が進んだのですから, 台風の実態を過不足無く表現し, 社会もそれに即した対応をしたいものです。』と述べている。著者の率直な主張に対して, 読者が強く同調したり反論したりしながら読める本というのも面白い。

本書全体の構成にあたって, 気象に関する多数の分野を掲載し, また, 雷などは多くのページを割いたため, 「気象衛星画像の見方」や「天気予報技術」などの項目は最小限の解説に終わっている。もっと深く解説してもらいたいものも多いが, 限られた紙面ではこれ以上は難しいのかもしれない。本書を読んでさらに興味を持った読者は「参考文献・資料」が詳しく載っているの, これらを元に学習することになる。

気象関係の業務に携わる人, 電力, 運輸, 建設など

第1表 台風の強さと大きさの分類 (新, 旧比較)

台風の強さの分類			台風の大きさの分類		
最大風速	(現在)	(旧)	平均風速15m/s以上の強風域の半径	(現在)	(旧)
17m/s以上 25m/s未満	〈表現なし〉	弱い	200km未満	〈表現なし〉	ごく小さい
25m/s以上 33m/s未満		並みの強さ			
33m/s以上 44m/s未満	強い	強い	200km以上 300km未満		小型 (小さい)
44m/s以上 54m/s未満	非常に強い	非常に強い	300km以上 500km未満		中型 (並みの大きさ)
54m/s以上	猛烈な	猛烈な	500km以上 800km未満	大型 (大きい)	大型 (大きい)
			800km以上	超大型 (非常に大きい)	超大型 (非常に大きい)

の仕事に携わる人に役立つばかりではなく、気象に興味を持っている一般の人にも、気軽に読め、気がつか

ないうちに気象の一般知識が身につく教科書である。
(長野地方気象台 下山紀夫)



教員（東京大学気候システム研究センター）公募のお知らせ

東京大学気候システム研究センターでは、下記の要領で気候変動現象研究部門気候変動研究分野の教員を募集いたします。

記

1. **公募人員**：気候変動現象研究部門気候変動研究分野 助教授または講師 1名
2. **職務内容等**：気候システム研究センターでは、3次元気候モデルの開発、それをを用いた気候形成や気候変動メカニズムの解明、雲プロセスやメソスケール気象も含めた次世代型気候モデルの開発等に関わる研究・教育を重要課題と考えています。本公募では、これらの課題に興味を持ち、これからの気候研究を切り開く意欲を持った者を募集します。
3. **応募資格**：博士の学位を有する者。国籍は問わないが、研究・教育業務に差し障りが無い程度に日本語が使えること。
4. **応募方法**：自薦もしくは他薦（他薦の場合は本人の承諾を得ていること）
5. **着任時期**：決定後、できる限り早い時期に着任のこと。
6. **提出書類**：
 - (1) 略歴書（学歴および職歴）
 - (2) これまでの研究業績の概要（A4用紙3枚程度）
 - (3) 研究業績目録（査読論文とそれ以外の総説、著書などに分類）
 - (4) 主要な原著論文別刷り（コピー可）3編以内
 - (5) 自薦の場合は今後の研究・教育の計画と抱負、他薦の場合は推薦状（A4用紙2枚程度）
 - (6) 応募者に関する所見を伺える有識者2名の氏名、連絡先
7. **応募期限**：平成16年11月15日（月曜日）必着
8. **書類提出先**：

〒153-8904 東京都目黒区駒場4-6-1
東京大学気候システム研究センター事務室
【封筒に「教員応募書類在中」と朱書し、郵便の場合は書留で郵送して下さい。応募書類は返却しません。】
9. **問い合わせ先**：

気候システム研究センター教授 木本 昌秀
電話：03-5453-3957, Fax：03-5453-3964,
電子メール：kimoto@ccsr.u-tokyo.ac.jp
公募のお知らせはホームページにでも見られます：<http://www.ccsr.u-tokyo.ac.jp/>
10. **補足**

気候システム研究センターは2005年4月より柏キャンパス（千葉県柏市柏の葉5-1-5）に移転します。